

令和4年度授業改善推進プラン

	授業における課題や学力調査資料から見えた課題	授業改善のための具体策	成果と課題(年度末)
国語	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の読み書きに自信をもって取り組める子は全体の2割程度である。 「書くこと」の正答率が全国と比べて30%近く低い。無回答率も多く、根本的な苦手意識がある。 文の主語述語・修飾語の文節の理解が低い。 読書は熱心に取り組んでいるが、読む本が偏っている。 学力調査より、自分の考えをまとめることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 2週間に1回程度、定期的に漢字の小テストを行い、知識の定着を図る。 行事作文や朝学習での短文、授業の中での考えの伝え合いなどを通して、日頃から「いつ」「誰が」「何を」「どうした」を意識した文章を書かせる。 文章を読み取る際、主語や修飾語がどの言葉にかかっているのか確認し、理解を深める。 図書では、図書支援員の方と連携し、多くの書籍の楽しさを知ってもらえるよう読み聞かせやブックトークを充実させる。 友達と考えを伝え合う時間を設け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 資料の中から必要な情報を見付けることが苦手である。 学年全体の約半数の児童がグラフの読み取りが苦手である。 調べたことを自分の言葉を使ってまとめることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活経験や他教科の既習事項などを関連させた振り返りや単元の導入場面を設定する。 授業の中で積極的にグラフを読み取る機会をつくり、グラフを読み取る3つの視点を段階的に指導していく。 実物を提示することやワークショップ等の体験を知識と結び付けることで理解を深め、自分の言葉でまとめられるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 小数の四則計算の理解が低い。また、小数のわり算においては、あまりの小数点の位置の誤りが多い。東京ベネッセドリル診断シートの三位数÷三位数のわり算の正答率は5割、小数のわり算は3割ほどだった。 問題文の読み取りが十分でない為、数式や表と繋げて思考することが苦手な児童が多い。 東京ベネッセドリル診断シートの結果より、複合図形の面積問題で図形を多面的に捉えられず誤答が多かった。 市の学力調査の結果より、思考・判断・表現に課題が見られた。 学力調査において図形の問題に関する問題で都平均との差が30%あった。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習で取り組んでいるベネッセドリルやミライシードを活用し、整数のわり算で二位数以上の筆算の仕方から補充し、小数の四則計算が全てカバーできる小数のわり算を中心に反復練習する。 文章から題意を捉え数式化する反復練習ができるように、文章問題に数多く取り組ませる。 補助線の引き方や不明な長さの求め方を繰り返し練習し、苦手意識を払拭する。習熟度別少人数指導やパワーアップタイムによって個別指導を充実させる。 教科書にある考え方をノートに書いたり、友達に説明したりする。 プログラミング教育を丁寧におこなう。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 2事象の比較から分かる違いに気付くことはできる。 条件を制御した実験方法を考える部分は教員の支援が必要である。 実験結果から考察し、自分の言葉でまとめられる児童は約1割程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の前に必ず復習することで理解の定着を図る。 実験計画を考える際に、どの条件を、どのように変えるか細かく確認しながら進めるようにする。 話し合い活動やその時の大切なキーワードを明確にして、考察が書けるよう支援する。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍の2年間、歌えない時期・マスクを付けた状態で優しい声で歌うなど、発声や呼吸法を実践を通して学習できなかったため、歌唱の技能が身に付いていない児童が8割ほどいる。 コロナ禍の2年間リコーダーの学習活動に制限があったため、運指や音色、響きに気を付けて演奏する技能が不十分な児童が6割ほどいる。 音楽を形作っている要素などへの理解が不十分な児童が6割程度いる。 学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。音楽の授業でも聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表すことが苦手な児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 息をたくさん吸って歌うことや、口を大きく開いて発声することなどの基礎的な発声方法を重点的に指導し、家庭学習で実践するようにする。録画したものを振り返りながら指導する。 リコーダーカバーを活用することで授業中での練習時間を確保し、技能の取得を図る。 毎回、楽譜を見る時に音符、休符、記号や用語について振り返り、音楽活動を通して音楽を形作っている要素などを理解させる。 聴き取ったことや感じ取ったことを言葉で表す活動をより丁寧にを行う。(音楽のもとを音楽に関連させて) 	
図画工作	<ul style="list-style-type: none"> 立体工作であると意欲があるが、絵画になると思い通りの表現にならないと感じる児童がいるため4割程度の児童が苦手意識をもっている。 前学年までの材料や用具などについての経験や技能を、総合的に生かしたり、表現に適した方法などを組み合わせる活動が苦手な児童が3割程度いる。 学力調査の結果から、話すこと聞くことについて課題が見られた。図工の授業でも、作品作りや鑑賞活動において、自分の考えを伝える力に課題が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> 具象的な絵画だけでなく抽象的なものなど、さまざまな方法で描く題材を設定し、イメージマップでイメージを広げることで意欲的に制作に取り組めるようにする。 表現に適した方法などの組合せでは、一つ一つの表現の効果について振り返り、確認して制作に取り組むことで、題材や課題に合った表現ができるようにする。 作品作りや鑑賞活動において、伝え合う活動を意図的・計画的に行っていく。 	
家庭	<ul style="list-style-type: none"> 裁縫道具の扱いなどにおいて、実生活での経験が乏しく、学年全体の約20%の児童は一人では難しく、支援が必要である。 身の周りのことと関連していると結び付けることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業で学んだことを児童が家庭で実践できるように、保護者と連携して還元できる機会をつくる。また、ワークシートを準備して、家庭での実践を評価できるようにする。 自分事として捉え、生活に活かすことができるように身の周りの事象を学習で取りあげるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 反復横跳びや立ち幅跳びなど、動きの経験が少ない種目の数値が都平均より5ポイント程度低い。(昨年度の体力テストの結果より) 自分の課題を見つけて改善点を見付けることができるが、実践に結び付けることが難しい。 運動の得意不得意の二極化が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題が見つかった時に、改善点を丁寧に見出しながらコツを分かりやすく伝えるようにする。 技能のポイントを掲示したり、ワークシートを活用したりして、学び合いがしやすい環境を整える。 コーディネーショントレーニングを取り入れ、様々な運動を経験させる。 	
外国語	<ul style="list-style-type: none"> リスニングは得意な児童が多いが、発音することを恥ずかしがりが、声が小さいことがある。 スペルやアルファベットの書き間違いが多い。 学力テストの結果から、思考・判断・表現に課題があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム等を通じて外国語の楽しさに触れ、自然と声が出るように授業をしていく。 4線が書かれたワークシートや教科書を活用して、正しい字形を正しく書く時間を1単元で1時間取り入れる。 既習事項を総動員して、会話やスピーチができるような場面を増やす。 	
道徳	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちや考えたことを全体で発表することが苦手である。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをもたせてから、少人数での意見交流を入れることで考えを発表しやすくする機会を設ける。 ワークシートを毎時間使用することで振り返る時間をとる。 	
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 情報収集の手段がインターネットに頼りがちになる。 調べる内容が調べられたら、そこで満足してしまい、次の活動や発想の広がりにつながらない。 	<ul style="list-style-type: none"> 公立図書館や図書支援員とも連携を図り、情報収集に必要な資料を事前に集め、児童に提供できるようにする。 地域へのインタビューやアンケートなど、様々な方法で調べさせたり、情報交換の場を意図的に取り入れたりするなどの探求活動が深まるよう支援する。 	

※ 枠の大きさは適宜調整して、1枚に収まるように作成してください。